モントリオール映画祭参加作品

魂を失った奴は終りだ！

青春の出口を求めて
あいつは霧の中を
走り続けていた。

OKINAWAN BOYS

オキナワの少年

原作■東 峰夫（第66回芥川賞受賞・文藝春秋刊）
監督■新城 卓（第一回監督作品）

藤川 一歩
内藤 剛志
我那覇 文章
岡田 奈々
小野 みゆき
倍賞 美津子
津嘉山 正種
水原 ゆう紀
中島 葵
田中 邦衛
河原崎 長一郎
篠田 三郎
坂上 二郎
野川 由美子
青木 明子
辻 伊万里
小林 桂樹（特別出演）
緒形 拳

東宝

製作■鈴木ワタル
企画■新城 卓
■小倉 斉
プロデューサー■船津英恒
撮影■[illegible]
美術■[illegible]
照明■島田忠雄
録音■米山英明
音楽■池辺晋一郎
編集■鍋島 惇
イメージソング
「夢も泣いている」
唄■風間杜夫
作詩■大津あきら
作曲■鈴木キサブロー
（コロムビアレコード）
「OKINAWAN BOYS」
「群雄社出版刊」
製作協力■㈱ムーンビーチ
製作■㈱パル企画
配給■東宝㈱

195070－202

9月10日土曜ロードショー

●伊勢丹前シネタウン　☎351-3129

新宿ビレッジ2

日・祝	10:00	平日	12:10	2:30	4:50	7:10

■かいせつ

沖縄出身の東峰夫の原作「オキナワの少年」（第66回芥川賞受賞）を同じく県出身の新人監督、新城卓の手で映画化したのが「OKINAWAN BOYS・オキナワの少年」だ。

一九五九年、本土復帰前の沖縄。常雄は石原裕次郎や小林旭にあこがれる映画少年だ。常雄の少年時代と、映画に情熱を賭ける十一年後の東京での青春時代が交錯してゆく。〝基地沖縄〟、本土での〝沖縄人〟の葛藤。それは一人の映画を愛する青年の青春という形で、人間の哀しさ、優しさが語られてゆく。

主演の常雄には、少年時代に我那覇文章、青年時代に藤川一歩と新人が起用され、小野みゆき、岡田奈々、内藤剛志の他、緒形拳、倍賞美津子、田中邦衛、野川由美子、坂上二郎、小林桂樹らベテラン俳優が脇を固めている。

■ものがたり

一九七〇年二月。映画の道を志す比嘉常雄は二度目の東京の冬を迎えた。本土復帰前の沖縄から上京し、製本会社に勤めたが一年と続かなかった。今は子供の頃からの親友で大学生の悟の下宿に居候の身だ。日雇い労働とシナリオ学校に通う毎日だが満足できるものではなかった。

常雄の実家は米軍キャンプ周辺にある米兵相手の売春バーだ。毎夜、酒を浴び娼婦を抱く米兵の喧騒は小学生の常雄には耐えられなかった。

常雄の楽しみは映画だ。石原裕次郎や小林旭のスクリーンは別世界へと引き込んでくれる。常雄を見守ってくれるのは祖母のモウシだ。モウシは「魂を失った人間がどうして社会で生きていける」と常雄に人間の生き方をいつも論してくれた。真理子が店で働くことになった。常雄より年上の少女だが、二人は仲の良い兄妹のようになっていった。

常雄が6年生の時、米軍のジェット機が小学校に突っ込んできた。教室は燃え上がり、悟は耳をやられた。級友たちが「戦争だ」と叫び続ける声だけが常雄の耳に響いていた。中学生の頃、モウシが米軍のジープに轢き殺された。父の動揺はすさまじく、米軍キャンプでの抗議は、親を失った悲しみ以上の何かを常雄に感じさせた。真理子が娼婦になる日が来た。嵐の日だった。米兵に組み敷かれる真理子を常雄はどうすることもできない。涙がでてきた。

沖縄の思い出は辛い暗いものばかりだ。しかし、東京で生活しているとそんな思い出が去来してくる。常雄は撮影所に職を求めに行くが、合理化、再編成の映画界で働くのは不可能だった。

悟は恋人の絹子の妊娠に悩んでいた。ある日、悟は就職内定の会社から、耳が不自由なことなどの理由で内定取消しの通知を受けた。さらに、沖縄出身ということでパスポートの必要な外国人という対遇を受けるのだった。

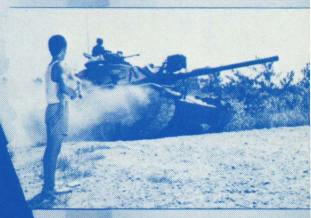
常雄は映画への夢を棄てかけていた。沖縄へ帰る踏ん切りもつかぬまま、東京の街を彷徨っていた。そんな時、真理子と再会した。真理子は本土復帰間際の沖縄で娼婦を続けることができず、姉のいるアメリカへ行くことになった。その前に常雄に会いに来たのだ。常雄はいとおしかった。真理子を抱かずにはいられなかった。

悟の下宿に戻ると、常雄を待っていたのは悟の死であった。バイクで国会議事堂に突っ込んでいったのだ。自殺か事故死かは分からないという。糸が切れたのだ。悟の心の糸が。

常雄は絹子と一緒に悟の遺骨を抱いて沖縄へ帰っていった。船上から沖縄本島が見えてきた。常雄は悟の骨を深い青い海へひとつづつ沈めていった。沖縄の言い伝えで、親より先に死んだ者は先祖の墓に入ることはできないのだ。悟が好きだった海に骨を沈めることが悟への弔いだろう。常雄はいつまでも骨を棄て続けた。

新城君は沖縄県出身者として、また映画創りの現場人間としての意地を持っている。その意地と行動力で「OKINAWAN BOYS・オキナワの少年」をついに映画にした。私は作品を見せてもらい、胸が熱くなった。新人のデビューに何よりも大事な「想い」がこもっているのを強く感じたからである。

今村昌平氏〈映画監督〉



■スタッフ

製作……鈴木ワタル
企画……新城卓
〃……小倉斉
プロデューサー……船津英恒
原作……東峰夫
（文藝春秋刊・第66回芥川賞受賞）
脚本……中田信一郎
〃……高際和雄
〃……新城卓
監督……新城卓
撮影……姫田真左久
美術……斉藤嘉男
照明……島田忠昭
録音……米山英明
音楽……池辺晋一郎
編集……鍋島惇
協力……日本航空
〃……琉球海運株式会社
〃……東京沖縄県人会
〃……大阪沖縄県人会連合会
イメージソング「夏も泣いている」
唄　風間杜夫
（コロムビアレコード）
「OKINAWAN BOYS」
（群雄社出版刊）
製作協力■株式会社ムーン・ビーチ

■キャスト

比嘉常雄……藤川一歩
石垣悟……内藤剛志
下地真理子……小野みゆき
北沢絹子……岡田奈々
比嘉徳章……緒形拳
比嘉モウシ……辻伊万里
比嘉里子……野川由美子
小金井……小林桂樹
大家……倍賞美津子
製作部長……坂上二郎
新助……田中邦衛
玉寄……河原崎長一郎
鑑察医務院職員……篠田三郎
比嘉常雄（12）……我那覇文章
下地真理子（14）……有元瑞枝
ハルコ……愛川まりも
チーコ……水原ゆう紀
ミチコ……宇田川智子
トミコ姉……中島葵
洋子……青木明子
恵忠……津嘉山正種

OKINAWAN BOYS
オキナワの少年

製作■株式会社パル企画
配給■東宝株式会社